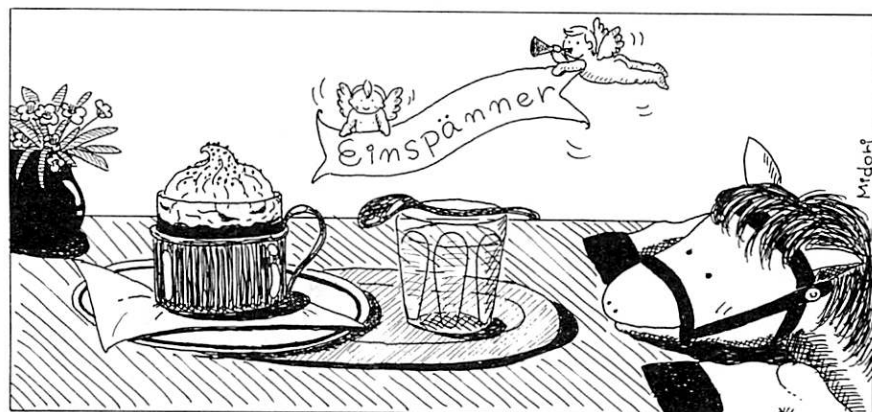
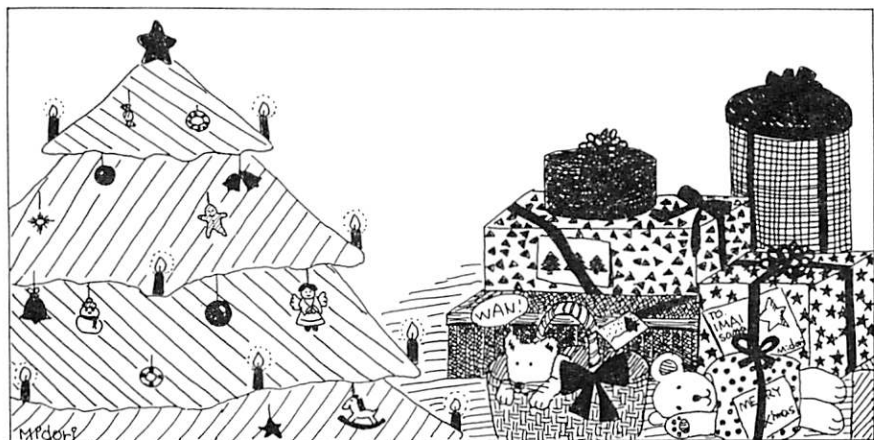


あとがき

小生の拙文を日本人会会報の付録として毎月一回ぐらいのペースで書いてみないか、というきっかけを作って下さったのは、一九八四年当時のジェットロの長であり、日本人会の会長も兼任なさっておられた藤井清司氏であった。氏はもうずいぶん前に帰国なされたが、その後もおつき合ひさせていただいている。

ウィーンに長期滞在する、とはいっても、普通の日本人の場合はせいぜい数年であろう。したがって小生の駄文を五十回にわたって全て読んで下さった、という殊勝な方は、もうあまりいらっしやらないと思われる。第一回執筆は一九八四年の事であった。それ以降、しばしば締切りに間に合わずに穴をあけたりしながらも今回まで続けて来られたのは、ひとえに読者の皆様からの励ましのお陰である。音楽家が自分の守備範囲の事について書くから簡単か、というところ、これはとんでもない誤解である。日本語をあやつる難しさはいうまでもないが、テーマを決めてからの取材や事実関係の証明など、その準備だけでも結構な手間がかかった。実際に文字にしてみると、自分の頭の中にある知識など結構うる覚えだけであって、毎回自分の無知さ加減を思い知らされるはめとなった。しかしこの作業が自分の勉強になった事も確かである。





この連載の歴史は、同時にワープロの歴史でもあった。

新しい物好きの小生は、日本に演奏旅行などで帰国するたびに、懐具合を顧みず必ず何かしら新製品を仕入れてくるのが常で、これがいつも夫婦喧嘩の種になるのであった。そんな中で見つけた「日本語タイプライター」という新製品は、小生の興味をいたく刺激するものとなり、早速一台仕入れたのだ。

今でこそワープロはずいぶん利用されるようになり、学生のレポートや会社での企画書・報告書などはこの文明の利器を使用して書かれるようになってきた。しかし、この日本語タイプライターというワープロのはしりにあたる機器は、それが画期的なものだった事は事実だが、今になって振り返ってみれば実に使いにくいものであった。

キーボードで入力してから漢字に変換する、という基本的なプロセスは今も昔も変わらないが、その当時は単文節での変換はおろか、熟語単位での漢字変換も不可能だった。漢字ひとつひとつの音読みを入力し、それぞれをひとつづつ変換する、という手間のかかるものであった上、一行の終りまで入力し終わると、それをプリントしない限り次の行に移れない、というものでもあった。つまり、ワープロの強みである編集機能などはないに等しく、下書きして校正もすませた文を消書するだけの、まさに「日本語タイプライター」だった。

活字も確か十八ドットで、テンテンの目立つ文字であったが、それでも結構気に入って使っていた。「もしこれだけの長さの原稿を手書きで読まされるのだったら、きつとみんな最後まで読み切る辛抱はないでしょうねえ」という、当時のある読者からのコメントは的を得ている。しかしA4裏表の原稿を清書するのに、ほぼまる一日つぶれる、というものであった。

ワープロもその後新製品が出るたびに買い替え、現在使用している機械は最初から数えてすでに五台目である。この六年間におけるワープロ日進月歩の発達を身をもって経験したわけだが、その移り変わりの速さは驚くべきものであった。

原稿が五十回分たまったのを区切りとして、日本人会の御尽力によって「音楽雑学帳」を一冊の本の形でまとめていただける運びになったのは、小生にとって栄誉なことであり、何よりも喜びである。

これを機会に今までの原稿に加筆訂正を行い、編集しなおした成果がこの本である。読者の皆様に楽しんで読んでいただけるのであれば、本望である。

最後に、この本を製作するにあたって多くの御助力をいただいた日本人会事務局の皆様、そして昔の原稿をフロップピーに入力し、この本のグラフィックを担当して下さった石井みどりさんに心から御礼を申し上げます。

一九九〇年二月、ウィーンにて

今井 顕

今井頭いまい かしら

東京に生まれる。母親にピアノの手ほどきを受けたが、音楽の専門過程へ進む気持ちはまったく持たず、武蔵中学より武蔵高校へ進学。趣味としてのピアノは継続する一方、フルートやチェロにも興味を持ち、これらの楽器を演奏しながら友人とのアンサンブルを楽しんでいた。

十四才の時に訪日中のピアニスト、パウル・バドゥラⅡスコダにめぐり会う。これをきっかけに高校を中退、彼の薦めにしたがって渡欧。十六才でウイーン国立音楽大学に入学し、初めてピアノ演奏についての専門的訓練を受ける。十九才の時に同校を最優秀の成績で卒業。国際コンクールでも頭角を現わし、この頃より優勝、入賞、など各地で数々の賞を得るとともに、幅広いレパートリーを身につける。

その後ウイーンでの留学生活にいったん区切りをつけ、西ドイツに移転。シュトゥットガルト国立音楽大学ならびにエッセン国立音楽大学にて研鑽を積む。

一九七九年演奏家資格試験合格と同時にエッセン国立音楽大学にて室内楽ピアニストとして勤務、一九八一年からはウイーン国立音楽大学ピアノ科で日本人初めとしての講師として教鞭をとっている。

ペーターズ社（東独）やオイレンブルク社（英）をはじめとする音楽出版社における原典版楽譜の編纂にも従事し、ヨーロッパ各国での演奏活動や国際コンクールの審査、国際色豊かな後輩達の指導とならび、ウイーンと年間数往復しながら日本における活動も幅広く行っている。



石井みどりいし い みどり

一九六〇年、神戸に生まれる。一九八七年まで貿易商社に勤務。現在はロンドンとウイーンにてグラフィックを勉強中。夢は自分の絵本を出版すること。

